

慈眼

第35号

発行所
佐賀市西田1丁目4-6
本行寺内
TEL 0952-24-1813
FAX 0952-24-1813

日蓮宗佐賀
教化センター

発行責任者
松野邦俊

目蓮宗佐賀県 護法唐津大会



護法の祈り法要

平成二十二年十一月七日、日蓮宗佐賀県宗務所（小寺大誠所長）主催・日蓮宗佐賀県檀信徒協議会（森永新二会長）共催による、日蓮宗佐賀県護法唐津大会が、メインテーマを「立正安國・お題目血縁運動」サブテーマを「いのちに合掌」と題し、唐津市民会館を会場として開催された。これは過去四年、県内を佐賀地区、小城地区、杵藤・伊万里、有田地区・多久、唐津地区の四地区に分け、堅苦しくない親しみやすいミニ護法大会をといて始まった地区檀信徒研修道場の集大成として、約一年前より小寺所長を中心に会議や練習を重ね、当日は僧侶、寺庭婦人、檀信徒合わせて約千三百人近くが参加して行われた。

午後一時、小寺大誠佐賀県宗務所長は開会の辞で『今宗門が掲げている運動目標が「敬いの心で安穩な社会づくり、人づくり」であり、本日の参加者皆様が檀信徒のリーダーとして先頭に立って、各お寺・各ご家庭で一人でも多くの方に「お題目」を伝えて頂きたい。平成三十三年には日蓮大聖人御降誕八百年という大切な節目を迎えるにあたり、本日の大会を新たな誓いの日として法華経・お題目をお唱えしましょう。』と述べ、その後宗歌が斉唱され、松島正英布教師会長による法話が行われた。終了後、大導師に小寺大誠佐賀県宗務所長、副導師に加藤智顕協議員議長・石井智俊協議員副議長を迎え、県内寺院総出仕のもと護法の祈り法要が厳修された。この法要は、シンセサイザーを伴奏に取り入れ和讃を奉納する音楽大法要で、法要中、唐津市・法蓮寺（藤山英周住職）檀徒の親子三世代による献香・献灯・献花も執り行われた。法要終了後、舞台暗転中に式衆が入れ替わり、初井恵親修法師会長を修法導師として県内修法師による修法が行われた。その後、佐賀市・國相寺（松島正英



唱題行

住職）檀徒、西村昭子さんによる檀信徒代表の信仰体験談をお話し頂き、最後のプログラムである日青会行脚隊による唱題行が小寺所長を導師に行われ、会場も割れんばかりのお題目の聲が響きわたった。最後に、森永新二檀信徒協議会会長の閉式の辞が述べられ、日青会行脚隊の唱題太鼓の中で参加の皆様をお送りし、無事に大会の幕を閉じた。

【特集】

《星祭》

今回は、冬のおなじみの年中行事『星祭』についてご紹介します。

星祭とは、一年ごとに巡ってくる運命を左右する星を供養し、個人の一年間の幸福を祈り、災いを除くお祭りです。仏教本来の教えではないのですが、仏教が各地に広まる際に、道教や陰陽五行説などの影響を受けつつ、まず迷い多き衆生を救い、仏の教えに導くための方便として釈尊滅後に独自に成立、発展したものです。現在、日蓮宗に限らず、多くの宗派が行っています。

古来、世界の各地で、一切の事象の吉凶は、天体の運行によって予測でき、そして人間の運命もまた、その人が生まれた年や月などの星によって禍福が支配されていると考えられていました。東洋では、その人の運命を支配する星を本命星といえます。本命星には九種類あり、日(太陽)、月、火星、水星、木星、金星、土星という目に見える七つの星と、羅睺星と計都星という架空の二つの星があります。この九つの星は毎年、居場所が変わります。自分の生まれた年に、中央に

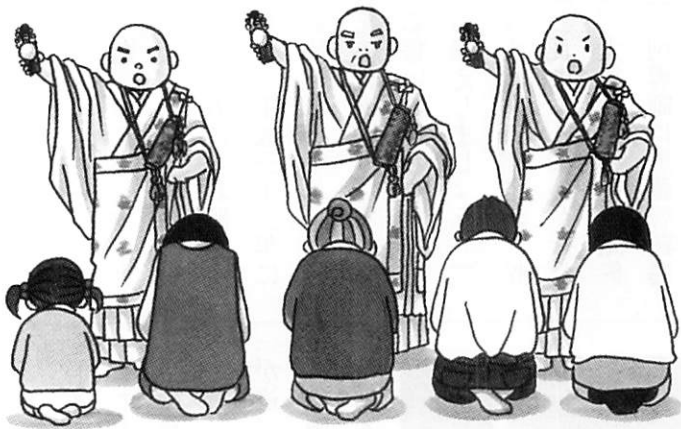
配置されている星が自分の本命星になります。この位置を観て各人の星をお祈りして除災得幸を祈念します。

日蓮宗では、大聖人が龍口法難の際、月のような光物(月天子)によって難を免れ、翌日に「明星のような大星が下つて、梅の木にかかった」ということから法華経の行者に、月や星の守護が得られると信仰しています。さらに法華経の「諸天は昼夜に衛護す(取意)」等の経文から、星(九星・曜)に願いをかければ、必ず守護があるとしています。

また、星祭の起源としては『中国のある村で、旅の高僧が貧しい村人達から精一杯のもてなしをしていただいた。その心遣いに感動した僧が、村が豊かになるようにひとつの秘法を授けた。冬至の日の夜明けに、空に太陽と月と星(三光)が同時に登っている一瞬を狙って報恩の祈りを捧げれば、望むものが手に入るといったものだった。果たして村人達は高僧の言いつけ通りに祭りを実行し、富を得

てその後永く栄えた』と言われるものもあります。しかし、冬至の夜明け(標準時で朝の七時頃)にお祭りを営むのは、現実には難しいものがあります。最近では、だいたい冬至の前後、もしくは星の移り変わる旧暦の年の初めである立春・毎年二月四日あたりに行う寺院があります。

また、北辰妙大見菩薩を祭祀し修法する事から十五日に行う寺院もあります。



草苑

OMEGA ALPHA SAAL
木下株式会社

冠婚葬祭 セリエンス
(株)平安閣エヌピーオー互助会
木下株式会社 草苑

北佐賀草苑
TEL 0952-30-4040
FAX 0952-30-4043
佐賀市兵庫町1115

大和草苑
TEL 0952-64-8448
FAX 0952-64-8447
佐賀市大和町尼寺72-1

南佐賀草苑
TEL 0952-25-1255
FAX 0952-25-1088
佐賀市本庄町本庄951-10

鳥栖草苑
TEL 0942-82-6430
FAX 0942-82-6502
鳥栖市古賀351-1

佐賀の老舗 信用本位

辻の堂の仏だんや
(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

『今を生きる心のありよう』

衆生の心が清ければ土も清けられ、心清ければ土も清しとて、浄土と云い穢土と云ふも土に二つの隔なし、只我等が心の善悪によると見えたり。

『一生成佛鈔』建長七年(一二五五)

宗祖御年三四歳

日々、失われていく自然の姿を見るにつけ、また毎日のように繰り返し報道されている悲惨な出来事を知る度に、幸せの追求と云いながらも、この地球を「悪」へと変えている張本人は、結局は我々人間なのだと思つづく思つてしまいます。もしも、人間という一つの命が、この世に生まれて来なければ、地球はどんなに美しい、「みほとけの国＝浄土」であつたでしょう。

例えば、人間以外の他の総ての生き物は、いつも我が本分を尽くして、自然のままに、あるがままにこの世界に生かされて、自分の為に犠牲になつてくれた生命を我が身の中に生かしながら、それぞれが(みほとけ)魂の一分を生きてい

るのに、人間だけが(みほとけ)与えられた本来の目的に見向きもしないで、ただ目先の欲望の為だけに、自分の生命さえ「殺す」のであります。とても哀しいことだけれど、そんな人間の存在が、この世を「穢土＝けがれた世界」にしていくのではないでしょう。

日蓮大聖人は、苦しみ多きこの世界を、み佛のおわす心豊かな国＝浄仏国土とする為に、私達の心のありようを、常にみ佛の心に通じる「善」へと誘う『御題目の信仰』を弘め、今を生きる私達にお残し下さったのです。私達の心が悪意におぼれ穢れてしまえば、私達の周りには悪者が集い、この世界は悪土となる。私達の心が善意に目覚め清らかなれば、同心の者が集い来たる素晴らしい世の中となるでしょう。「浄土」は他所に求めるのではなく、実は私達の心の中にこそ常に在ることをそして、その心のありようが、この世界を「善」にも「悪」にもすることを、大聖人様は私達「幼き佛」にお教え下さっているのです。

人身は受けがたし爪上の土、人身は持ちがたし、くさの上の露。百二十まで持ちて名をくたし(腐)て死せんよりは、生きて一日なりとも名をあげん事こそ大切なれ。

『崇峻天皇御書』建治三年(一二七七)

宗祖御年五六歳

人間がこの世に生を受けることは大変まれなことさらに法華経に縁を頂くことなど大変難しいことなのです。これ程僅かな確率でしか生まれることが出来ない貴重な人間としてこの世に誕生して法華経に巡り会うことが出来ても私達は、草の上に出来る朝露のように非常に儂い存在なのです。だからこそ私達は、世の中が辛いなどと嘆いて、いたずらに空しい人生を送つてはいけません。人間が人間らしい生き方、すなわち世の為人の為に尽くす生き方をし、他の人々に安らぎの心を与えるような日常生活を送る努力を怠つてはいけません。その為に、身と口と心で「南無妙法蓮華経」の御題目を一心に唱えることです。御題目を唱えれば、私達に元々具わっている『仏性』＝清い仏が湧きだした自然と人間本来の生き方ができるのです。

平成22年度・創業91周年、仏壇・仏具の総合専門店

光古賀仏壇店

3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 〒840-0813 TEL(0952)23-5521
佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952)23-5564



手を合わせることを大切に・・・

山本仏具

佐賀市呉服元町10-12 23-4308
〒840-0824 ☎(0952)

- 殿机具瑠物
- 宮・経・仏・瑠
- 物・壇・仏・瑠
- 物・須・弥・彫
- 物・金・美・刻
- 物・錫・須・美
- 物・卓・天・神
- 物・前・人・宗
- 物・修・天・教
- 物・登・仏・繪
- 物・寺・高・壇
- 物・院・座・幅
- 物・用・一・物

寺院紹介

《安静山 正傳寺》

佐賀市川副町大詫間五九〇番地

〔交通〕

佐賀市営バス犬井道線大詫間行「大詫間バス停下車徒歩五分、佐賀駅より車で二十五分」

◀正傳寺



〔由緒〕

天和元年（一六八一年）、時の土地領有者である深堀公（鍋島豆州史）が建立して、正法弘通のため大僧都法印妙典院

日崇上人を招き開山とし、大詫間開拓の歴史と共に発展してきました。

平成三年に二度の大風により甚大な被害を受けましたが、檀信徒一同の協力により平成八年現本堂の落成で総て寺観は一新されました。

〔正傳寺の半鐘〕

正傳寺に伝わる半鐘は、天和三年（一六八三年）に制作されたもので、植木善平衛政住の作で、銘文の撰は佐賀藩の儒学者として有名な石田一鼎で、銘文には大詫間の成立の経緯、大潮や風水害との苦闘など開拓の歴史が記してあります。また、慶安三年（一六五〇年）の災害による死者を、この釣鐘を鳴らして御経を唱えて弔ったことも刻まれています。

〔本堂欄間〕

法華経は、お釈迦様が説かれた多くの教えの中で最も奥深い真理を表したもので、とくに正しい真理「正法」と言います。

この法華経二十八品の内八枚

を圖案化して、高さ八十二センチ、横百八十七センチ、厚さ二十一センチのケヤキの板に両面彫りにして、六年の歳月をか



▲妙法蓮華経宝塔品第十一 多宝塔出見の図

けて制作されました。

日蓮聖人の伝記を絵巻として、室町時代の代表的な作品（註画）は旧国宝に指定されていた物です。

この註画をもと絵として、長い物は横、約三百四十七センチ、短い物は約百三十四センチ、高さ六十四センチの大小二十五枚のケヤキ板に五年の歳月をかけ彫り上げられた物です。

〔年中行事〕

- 一月 一日 新春加太祈禱会 十時～十六時
- 毎月 九日 鬼子母神祭月参り
- 一月 三十日 鬼子母神大祭、大黒天大祭、星祭大祭 午前十一時より
- 三月 十八日～三月 廿四日 春彼岸会 午後二時
- 八月 十六日 施餓鬼法要 午前十一時より
- 九月 二十日～九月 廿六日 秋彼岸会 午後二時
- 十月 四日 御会式法要 十一時より



▲立正安国論奏進の図

設計 石の雅 施工

www.ishinomiya.jp

平川石材店

小城町上町 ☎73-4738

石材・墓石に関することは、すべてお任せ下さい。

総合葬祭 有限会社 黄城

黄城 黄城 黄城

葬祭会館 光雲閣

〒845-0022 佐賀県小城市三日月町久米2134-1 (JR 小城駅西)

黄城代表番号 ☎(0952)-73-3938

光雲閣 ☎(0952)-73-2020